20、「書」が患者の心理面に及ぼす影響について

国立療養所箱根病院
稲 永 光 幸　　小 原 義 夫

自己表現が苦手でうまく集団の中に入っていけない患者や情緒的に不安定な患者を対象に「書」を用いて、心理療法的なアプローチを試みた。「書」の利点としては、①各々の技術水準において、それなりの表現が可能であるため、「作品」完成の満足感が容易に得られる。②めんどうな器具や設備が不要である。③従って書く方としても、ちょっと書いてみようかという気になり易く、導入に無理がない。④手紙等、字を書く際の練習としての意味もあるので　成人患者の場合動機づけが容易である。等があげられる。

一年間に渡り、様々な患者に行なってきた結果、①次々と作品を完成していく過程の中で自信がつき、自発性の高揚に好影響を与えた。②萎縮していた字がのびのび書けるようになるにつれ精神的安定度も増したようにみられる。等の成果はあったが、実施上様々な問題点が明らかになってきたので報告したい。

1. 「書」というもの自体個人作業であり、ややもすると自分の「書」だけに注意が向いてしまい易く、グループで実施する場合、なかなかグループ活動になり得ない。時折、みんなでお茶を飲んだり、他の患者の作品について意見を言い合う時間を設けたが、十分な効果がみられたとは言えなかった。
2. グループで行なう場合、患者の性格、機能障害度等の配慮が必要である。うまく書ける者が、ヘタな者に対して辛辣な批評を加えたため、グループが崩壊してしまうという出来事が生じたのである。グループ構成としては、5人位までの小人数でしかも技術的に同じ位の者が適当なようである。
3. 上記の問題と関連するが、作品に対する評価は慎重に行ない、技術的な側面よりも、作品としての価値に重点を置く必要がある。これは当然のことであるが、実際にはなかなか難かしく、患者の自己評価（必要以上に自己卑下が強く、手本との技術的ギャップに注意が向いてしまう）を修正させ、作品としての価値に目を向かせるのに時間がかかる。
4. さらに、評価・指導に当っては公平をきすことが不可欠で、特定患者に注意が向くとグループの雰囲気がギクシャクしたものになるので注意が必要。

以上のような注意すべき点は、なにも「書」に限ったことではないが、患者はスタッフが考えている以上に敏感であり、それ故、心理面で様々な問題点を有していることがうかがわれる。この一年間を通して「書」を実施する上での様々な問題点が明らかになったので、これらを基礎として、今後は「書」の変化と心理的変化の対応について本格的な検討を加えて行く予定である。

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

自己表現が苦手でうまく集団の中に入っていけない患者や情緒的に不安定な患者を対象に「書」を用いて、心理療法的なアプローチを試みた。「書」の利点としては、①各々の技術水準において、それなりの表現が可能であるため、「作品」完成の満足感が容易に得られる。②めんどうな器具や設備が不要である。③従って書く方としても、ちょっと書いてみようかという気になり易く、導入に無理がない。④手紙等、字を書く際の練習としての意味もあるので成人患者の場合動機づけが容易である。等があげられる。